

## I. イベント部会報告書（部会長 池辺 美紀）

### 1. 川を理解し水辺で安全に楽しもう(宮崎県河川課 水辺の活動応援事業)

川の自然の素晴らしさを理解し、川遊びを安全に楽しむためのスキルを学び活動する。

また、事故事例を知り、もしもの場合を想定したロープレスキュー体験を行った。

ライフジャケットの正しい装着方法を学び川流れで川の楽しさを知ることと同時に流れの危険を学んだ。

保護者からは、もしもの場合の、心の準備の大切さがわかったという声があった。

宮崎第一中学校の先生から、溪流での自然体験や水辺の事故防止体験をさせたくてもなかなか先生だけでは難しいので専門の指導をしていただいて有り難いとの声があった。

開催実績：7月28日（金）サイキグループ 70名

8月20日（日）沖水チルドレン 36名

8月24日（木）なかよしチルドレン 67名

8月25日（金）宮崎第一中学校 120名 計293名

実施内容：① 自然の豊かさと水質を知る② 安全に活動するための理解

③ もしもの場合の訓練



### 2. 水辺の安全利用講習会(国交省:河川水辺利活用支援他事業)

水辺の安全利用について住民に広く伝えるため、住民団体等の構成員、学生、行政職員、教員、その他子ども会の役員など子ども達と屋外での活動を行う立場にあるひとを対象として、水辺の安全利用講習会を実施した。座学では、河川に内在する危険箇所、浸水避難時の身の守り方、過去の水難事故事例や、浮力や水流による水の特性、活動装備品の正しい装着を学んだ。フィールド訓練では、チーム編成での渡河訓練、ロープレスキュー訓練を行った。

開催日：令和5年7月19日（水）

場所：座学 高岡交流プラザ会議室 実習 大淀川・浦之名川河川敷

参加人数：14名

座学講師 杉尾代表 池辺理事 フィールド訓練指導 池辺理事、松本理事、北林氏





### 3. 「豪雨災害を減らすシンポジウム」の開催(国交省:河川水辺利活用支援他事業)

令和4年台風14号時に発生した都城市内の内水氾濫を教訓にして、流域のみんなで雨水を上手に貯めることで被害を減らすさまざまな事例を紹介し、安全な生活を送るための方策について、流域住民の皆様と一緒に考えることを目的として、流域治水のシンポジウムを開催した。

実施日：令和5年7月29日(土)

場所：都城市中央公民館 大会議室

参加者数：121名

#### 1. 講演内容

- (1) 「令和4年台風第14号の水害を受けて」 都城市上下水道局下水道課 鎌田課長
  - ・ 出水概要、内水対策検討会、対応方針について発表
- (2) 「内水氾濫と気候変動について」 宮崎河川国道事務所 山崎流域治水課長
  - ・ 内水氾濫、水の集まり方・内水が溜まる理由、リスクマップ(上流域)発表
- (3) 「流域治水の取組について」 九州地方整備局 河川部 牧之内建設専門官
  - ・ 出水概要、流域治水(久留米市事例)、特定都市河川浸水被害対策法について発表
- (4) 「流域のみんなで上手に貯める内水被害の軽減対策について」 大淀川流域ネットワーク 杉尾代表理事
  - ・ 雨水の染み込み・雨水浸透例、早めの避難、流域治水について発表
- (5) 「内水被害軽減対策の紹介」 宮崎県県土整備部河川課 前田秀高氏
  - ・ 小松川(中小河川)の概要、河川改修のポイント、貯留施設について発表
- (6) 「経済的で楽しい雨水タンクの活用」 大淀川流域ネットワーク 松本浩二事務局長
  - ・ 設置の経緯、購入場所、設置場所・設置方法、使用用途、感想について発表
- (7) 「節水のつもりでやり始めたのですが・・・？」 都城大淀川サミット 宇都代表理事
  - ・ 貯水タンクの導入、節水の効果、感想について発表



### 4. 希少生物など水辺環境の保全(国交省:河川水辺利活用支援他事業)

宮崎河川国道事務所において、国道10号・220号の中央分離帯に生育するワシントンニアパームを移植する維持管理において木材が発生することから、この木材を板材に加工してタコノアシが生える水辺の南側に木製の競争植物排除帯(木道)を設けることによってタコノアシの保全を実施した。なお、木道は、絶滅危惧植物の生育地を散策できる形状とした。

参加者 約170名



## 5. 九州河川協力団体講習会への参加(国交省:河川水辺利活用支援他事業)

九州各地域の防災・環境教育・地域づくりなどの情報共有、活動における安全管理の充実など委託を実施する上で必要な河川の基礎知識等を習得するための講習会に参加した。

開催日：令和6年1月27日(土)～28日(日)

会場：福岡第二合同庁舎2階共用会議室

参加者：池辺美紀、北林雅史



## 6. 希少生物など水辺環境の保全(イオン環境財団)

河川整備計画の改修で掘削される予定地に生育している絶滅危惧植物タコノアシの移植と、競争種の伐採等の保全活動を実施した。

① 競争植物排除帯(木道)の設置及びタコノアシの移植

実施日：令和5年5月21日(日) 参加人数：168名

② 絶滅危惧植物タコノアシの移植と競争種の伐採等(1回目)

実施日：令和5年7月15日(土) 参加人数：56名

③ 絶滅危惧植物タコノアシの移植と競争種の伐採等(2回目)

実施日：令和5年9月2日(土) 参加人数：43名



## 7. 大淀川クリーンアップ2023 上流・下流編

ふるさとの川・大淀川を大切にする意識を醸成し、自然のありがたさや尊さ、その環境保全の大切さに対する意識の高揚を図り、環境にやさしく美しい社会づくりを推進することを目的として、大淀川クリーンアップを実施した。

大淀川上流域を河川協力団体の都城大淀川サミットが担当、下流域を大淀川流域ネットワークが担当し、上流下流で連携して清掃活動の範囲を拡大し、10月21日(土)に開催。

参加 国土交通省宮崎河川国道事務所、宮崎県河川課・土木事務所、都城市、曾於市、三股町、その他企業、

実施日：令和5年10月21日（土）

参加人数：下流 700名 上流 326名 合計 1026名



## 8. 水辺で乾杯

ミズベリングの一環で、九州全域で7月7日7時7分7秒に乾杯しました。

開催日：令和5年7月7日 場所：大淀川天満橋上流 せせらぎ水路

参加 約 50名



## 9. 大淀川フェス 2023(水辺の文化祭)

川を活かした社会実験「ミズベリング」の社会実験のひとつとして開催。

「水辺の文化祭」という形で「自然を知る・学ぶ」としたイベントを中心に開催した。せせらぎ水路を活用した初めての社会実験。降雨体験機や移動ポンプ車の展示もあり流域治水のPRも行った。

開催日：令和5年10月15日（日）

場所：大淀川せせらぎ水路広場（宮崎天満橋 付近）

来場者約 1000名



## 10. 九州「川」のワークショップ in 大隅

鹿児島鹿屋市で開催された、第2回九州「川」のワークショップ in 大隅に参加。

流域治水シンポジウムを発表

開催日：令和5年11月25日（土）～26日（日）

場所：リナシティかのや（鹿屋市市民交流センター）



## 11. 九州河川協力団体連絡会議

顧問 杉尾哲 副代表 池辺美紀 流域世話人 早瀬盟子

○副代表会議 5月23日、7月14日、9月13日、11月24日 12月4日、12月20日、1月12日、2月19日、2月22日（オンライン会議）、2月20日対面会議

○九州河川協力団体連絡会議 役員会

開催日：令和5年6月16日（オンライン会議）・8月17日（集合形式 福岡市）・  
12月20日（オンライン会議）

○九州河川協力団体連絡会議 全体会

開催日：令和6年3月6日（福岡市）



## 12. 九州河川みらい会議

九州の河川で活動する団体の若手と、国土交通省職員の若手が交流し、河川協力団体や流域治水の基礎知識や川活動のスキルを身につけるため開催

主催 九州河川協力団体連絡会議、共催 国土交通省九州地方整備局

開催日：令和5年10月11日～12日

会場：熊本県阿蘇市 YMCA 阿蘇キャンプ場

参加者46名

池辺美紀講師、北林雅史が参加



## 考察

イベント部会では12項目、のべ25回、参加者約3000名の事業を開催できた。

国土交通省の河川協力団体として99条委託を受け「水辺の安全講習会」「豪雨災害を減らすシンポジウム」「希少生物など水辺環境の保全」を実施。安全講習会では水辺でより安全に活動するための指導者育成ができ、シンポジウムでは流域治水の重要性の周知ができた、また希少生物の保全では、大淀川の希少生物の保護活動を行うことができた。

宮崎県河川課の水辺活動応援事業では、約300名の子ども達に川遊びの楽しさと安全な活動を伝えることができた。同時に保護者へ水難事故に合わないようするための準備などを周知できた。

水辺の文化祭では、大淀川の河川空間をゆったり楽しむことを目的に開催。多くの方に大淀川河川敷を散策してもらいその素晴らしさを伝えることができた。同時に国土交通省協力で降雨体験機、大型ポンプ車の展示もあり流域治水の重要性の周知もできたところである。